



ファミリーレース

8月5日



並み居る強豪を押さえてトップスタートを切った海燕2

真夏の8月5日に28艇の参加でファミリーレースが行われた。

全体的に風が弱かったが、Aクラスではリコールしながらもわずかなブローをうまく利用したドリーマーが優勝、BクラスではYAJIROBAYが優勝した。



前夜祭では華やかなダンスが行われ夜は更けていった

太陽が沈むと花火が打ち上がり会場を盛り上げました



出店も大賑わい

わずかなブローを有効に利用して疾走するAクラス優勝ドリーマー



Bクラス優勝
YAJIROBAY

Aクラス2位のアーリーバード



スピンランで競り合うチビズルと玉子丸
このころになるとブローはほとんどなくなり微風のためのレースとなった。

上位入賞のみなさんです



レース成績 (上位艇のみ)

クラス	艇名	艇種	順位
A	ドリーマー	ファー 31MS	1
A	アーリーバード	シーム 31	2
A	UMADORI-6	アーシャンポー 40	3
A	スターオブペッレヘム	X-350D	4
A	HEAT WAVE	P-25	5
B	YAJIROBAY	J-24	1
B	グラシャス 13世	Fs-28	2
B	TOTORO	ヤマハ 23 II EX	3
B	SEAGULL	X-79	4
B	WING	スイング 28	5

トワイライトレース

7月21日

順位はつきませんが本気モードで走る海燕2、EMI、CHIBI-ZULU（隠れていますが向こうにいます）

夕方にレースを楽しみ、夜にジャズを聴きながらおいしい酒と料理を楽しむトワイライトレースが行われました。

レースの参加は5隻と少なかったのですが、ヨットには最適の風で楽しめました。

日が暮れたことお楽しみのジャズパーティーが始まり、イーゼル芸術工場の演奏の中、おいしいお酒と間下ご夫妻の心のもった料理を楽しみました。



EMI



CHIBI-ZURU



海燕2



グラシャスポコ



シャークス



準備に勤しむ警のみなさん

なんと！

料理の中にヨットが走っています。



パーティーが始まりました

イーゼル芸術工場の松井さんの美しい歌声が響きます



大阪名物ビリケンさんも登場

デンギーレース成績 6月24日

選手名	1R	2R	3R	総合
古谷	2	1	1	1
荒岡	1	2	4	2
芝	3	3	5	3
四力所	8	4	3	4
中山	9	6	2	5
西村	5	5	7	6
北出谷	6	9	6	7
坂尻	4	7	10	8
野山	7	10	8	9
清水	10	8	9	10

あさがおレース

7月22日



スタートする各艇

トワイライトレースの翌日にあさがおレースが行われました。今回はサントピアからのヨットも参加がありました。昼ごろからいい風が吹いてきて楽しめました



オープン優勝
YAJIROBEY



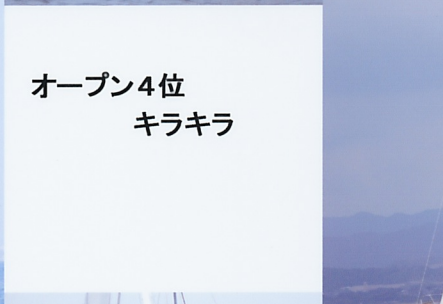
オープン2位
HEAT WAVE



オープン3位
海燕II



オープン4位
キラキラ



IRC優勝
EMI



オープン5位
マリエ モアナ



IRC3位
Chibi Zulu



IRC4位
夢ひょうたん

あさがおレース成績

クラス	艇名	艇種	1R	2R	順位
IRC	EMI	Mumu36	1	1	1
IRC	Ryusei-6	FARR-34IMS	2	2	2
IRC	チビズル	SEAM31	3	3	3
IRC	夢ひょうたん	TAYLOR47.5	4	4	4
OA	YAJIROBEY	J-24	1	2	1
OA	HeatWave	Farr-25PL	4	1	2
OA	海燕II	X-99	2	3	3
OA	キラキラ	Y31S	3	4	4
OA	マリエ モアナ	タータン34	5	5	5

和歌浦プチクル

7月28～29日



参加者で記念撮影

去年、台風のため流れた初の和歌の浦でのプチクルが行われ約20人の参加で大盛況でした。



マリナーシティに集合した各艇



徳島からもゲストが参加



バスで移動中
気分が高まります



宴会で盛り上がります

夢半ば 「しんふおにー」

上月さん、グアム・ロタ島に逝く



愛艇しんふおにーを操る在りし日の上月さん

わがクラブ特別会員である「しんふおにー」の上月さんが、12月20日午後、メルボルン～大阪 Wハンドヨットレース参戦を目指して回航中、修理のためグアムに立ち寄り、新品の到着までの時間を利用して、60マイル離れたロタ島にクルージングに出かけ、遊んでいたビーチで、突発的大波に吞まれ帰らぬ人となった。

57歳で退職され、新たな夢に向けて踏み出したばかりの、信じがたい突然の出来事。

20歳でディンギーと出会い、様々なヨットレースでスキルを高め、自分の夢をかなえるヨットを求めて探し当てたのが「しんふおにー」。

昨年7月から11月の出発まで和歌山・大崎に通いつめ、彼が施した安全性の強化・帆走性能の向上、各種計器・無線などの情報力の強化など、諸準備は半端ではなかった。それだけに、「嘘だ!」「何故!」との思いが募る。若すぎる別れとなりました。

いま、主人を亡くした「しんふおにー」はグアム島の一角にひとり佇んでいる。

誰か、彼の夢の続きを!

(市川)

仲間とクルージングを楽しむ上月さん



愛艇

「しんふおにー」大崎港出航の2日前の様子。整備は最後の追い込み

Wハンドレース参加のための出航直前に大崎港へ激励に来た仲間と記念撮影

